

◇ 天野和夫賞 ◇

## 天野和夫賞

### 第19回受賞者および選考理由

#### 1. 天野和夫賞の趣旨

本賞は、法哲学者としても活躍された立命館大学元総長・学長、故天野和夫先生のご令室・天野芳子様のご寄付に基づき、法の基礎理論研究の成果によって学問の発展に多大な貢献をしたと認められる、主として若手の研究者を表彰し、その研究を奨励することを目的とする。

#### 2. 本賞の対象

天野和夫研究奨励金規程（以下、規程）第3条の該当者

「法の基礎理論研究において優れた研究をもって学界に貢献した者」

#### 3. 第19回天野和夫賞選考の経過

2021年度については、規程第6条に基づき、品谷篤哉・本学法学部教授（法学研究科長）を委員長とし、田中成明・京都大学名誉教授（法哲学専攻）、河野恵一・本学法学部教授（法史学専攻）、高橋直人・本学法学部教授（法史学選考）、平野仁彦・本学法学部特別任用教授（法哲学専攻）、渡辺千原・本学法学部教授（法社会学専攻）、菊地諒・本学法学部准教授（法哲学専攻）、山田希・本学法学部教授（大学院担当副学部長）を委員として天野和夫賞選考委員会が組織された。選考委員会は、2021年11月17日に開催され、各委員より候補者の推薦があったが、その内、1名が選考委員であった。選考委員会で検討の結果、審査の公平性を担保するため、具体的な選考に入る前に当該委員に退出を求め、当該委員退出後、各候補者の著作について慎重な審議の結果、以下のように決定した。

#### 4. 第19回天野和夫賞受賞者とその選考理由

規程第3条該当者

菊地 諒氏

最終学歴：2020年3月 京都大学大学院法学研究科法政理論専攻博士  
後期課程修了

\*2020年4月より立命館大学法学部准教授

専門分野：法哲学

学位：博士（法学）京都大学（2020年3月）

著書：『「法と経済学」の揺籃』成文堂（2021年）

#### 【選考理由】

本書は、アメリカで1960年代以降発展し、日本でも基礎法学だけでなく経済法分野で大きな影響力を持つに至っている「法と経済学」の前史を、経済思想史の展開から描きだす研究書である。1800年代終盤から1920年代ころのヨーロッパの影響も踏まえたアメリカでの経済思想家の系譜をたどる。歴史法学の影響を受けたドイツの歴史2学派はアメリカの経済学にも影響をあたえ、やがて制度学派として成長する。古典派経済学に対し、歴史学派の薫陶もうけた制度学派は、国家や社会的環境、そして法制度も織り込まれた経済の動態を研究対象とし、法と経済学研究の土台を形成していったという。

本書の構成としては、サムナー、ラブラー、イーラー、アダムズ、コモンズら多数の社会経済学者の思想を取り上げる。法学と経済学の統合を試みた研究者の思想を中心に、近代から現代への歴史転換の中で、経済思想が法をどう位置づけてきたか、簡明かつ明晰に整理、分析し、「法と経済学」誕生前の経済思想の展開の物語を丁寧に紡いでいる。6章では制度学派のコモンズを、法学を経済学に組み込む理論として詳細に検討する。コモンズは、実定法に注目した社会理論を構築し、それを経済理論の基礎として利用する。資本主義を安定させる法的な基礎として経済活動をうごか

す慣習的なワーキング・ルールに着目する。こうした議論が、リーガル・リアリズムの展開につながってきたことも明らかにされる。リアリズムの論客ルウェリンは、コモンズの法道具主義的な視点を読み込み、法制度が経済秩序の条件を提供、効率性を実現する制度の構築をめざして法学と経済学の架橋を試みたと評価する。

このように、本書は、その書名の通り「法と経済学」の揺籃を描き出すことを主眼としているのだが、射程はそこにとどまらない。法学・経済学だけでなく様々な分野の社会思想家の文献を読み解き、経済思想のなかの法の位置づけとその法思想をあぶり出す。近代国家から現代国家への転換のなかで、自律的な法から、目的のための道具としての法へと法の役割も変遷し、法の学際的研究も活性化していくわけであるが、そうした法思想の展開に呼応するかのように、経済思想からの法の観察や法の分析という新たな視角でその展開に光を当て、その法理論を構築しており、独自性も高い。これまでの法思想史に欠けていた物語を補うという意味も大きい。法思想史研究としてだけでなく法社会学も含む法の学際研究の基礎理論もなしている。今後、さらにこうした学際的な法思想史研究を開拓し、学界に貢献していくことが期待される、天野賞の授賞対象としてふさわしい作品である。

## 5. 天野和夫賞授与式

2021年12月14日、本賞の受賞者出席のもと、山田希・大学院担当副学部長の司会により「天野和夫賞第19回授与式」が開催された。樋爪誠・法学部長より賞状ならびに副賞が授与され、続いて品谷篤哉・法学研究科長（選考委員長）より祝辞および選考理由が説明された。そして、受賞者の菊地氏から感謝の辞が述べられた。最後に授与式出席者で集合写真を撮り、式は和やかに終了した。

## 天野和夫賞の終了について

2000年3月にご逝去された本学元総長・学長の天野和夫名誉教授の御令室天野芳子様のご寄付により、2003年度から「天野賞」がはじまりました。本賞は、本学大学院法学研究科における研究あるいは広く学界における法の基礎理論研究に関する顕著な研究を表彰するものです。その天野賞が、2021年度の第19回の受賞者の確定をもって終了することとなりました。これまで、立命館大学大学院法学研究科における課程博士取得者21名、修士号取得者18名、法の基礎理論の研究者18名、計57名が表彰されました。受賞者にとって、大変心強い支援であったと思います。あらためまして、天野芳子様に心から御礼申し上げます。また、長らく選考にご協力頂いた田中成明京都大学名誉教授はじめ、本賞の運営に一方ならぬご尽力を賜った関係者の皆様に心より感謝申し上げます。天野賞の意義を、立命館大学法学部の歴史の中で、これからも大切に継承していきたいと考えております。

2022年6月25日

立命館大学法学部長 樋爪 誠